

光 明 寺 通 信

こ う み ょ う

第 27 号

によらい こうみょう こうみょう ちえ
この如来は光明なり。 光明は智慧なり。

ちえ
智慧はひかりのかたちなり。

しんらんしょうにんちよさく いちねんたねんもんい
親鸞聖人著作『一念多念文意』

ようやく涼しくなってきたようにも思いますが、日中はまだ暑い日もあります。体調には十分ご留意ください。

新型コロナウイルス感染症は、いまだ収束には至りませんが、社会はなんとなく感染拡大の恐れの優先順位を下げて、動き出そうとしてきています。本当に、なんとなくといった感じです。

まだ、元に戻すことはできませんので、真宗門徒にとって大切な御仏事である報恩講も、午前と午後の2部に分けて、感染拡大に配慮した形でのお勤めとなります。お斎もできません。

報恩講は、もちろん御仏事ですので、法要も大事ですし、法話を聞くことも大事です。親鸞聖人のご法事ですから、親鸞聖人を憶い、教えに出遇い得たことの喜びと、そのご恩に報いた生活を確かめることが大事なことです。

でも、お斎も大事にしたいことなのです。お手伝いいただきながら準備して、それぞれのお寺の看板メニューがあり、お寺独自の匂いがあるのです。光明寺の特徴は、煮物、白和え、煮豆でしょうか。それを一緒にいただくことが楽しい。来年はお斎をいただけることを願っています。



完成しました。
光明寺合葬墓「光明廟」です。

第 27 号

2022 年 10 月 1 日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田 9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

ホームページ：

<http://koumyouji-fukagawa.or.jp/>

第14回終活セミナー報告

2022年9月10日(土)、第14回目となる「終活セミナー」を開催いたしました。

参加者は、お寺に8名、インターネットで14名の方にご参加いただきました。

今回のテーマは「成年後見制度と家族信託」我が家にとっての対策への備え」とし、ご講師に、合同会社福祉ネット(遠山行政書士事務所)の遠山敏子さんにお越しいただきました。

例えば、連れ合いや親が認知症になったり、重い病気になって判断能力がないと認められた場合、その本人の財産は凍結すると言われています。

代わりに預金を引き出すことができなくなり、自宅(不動産)の賃貸や売却もできなくなります。さらには、相続手続きも凍結してしまうのです。

そのようなことになる前に、備えておく必要があります。



今回のセミナーは、「後見制度」と「家族信託」という選択についてお話いただきました。

まず、成年後見制度は、認知症になるなど判断能力がなくなってしまった場合に、家庭裁判所に申し立てをして成年後見人を選任してもらう制度になります。

成年後見制度は、本人の財産を守るための制度なので、本人の全ての財産管理が後見人に移ります。でも、全く知らない人に管理されるのは、あまり気持ちの良いものではありませんよね。

ですから、元氣なうちに自分の意思で後見人を決めることのできる「任意後見制度」を利用すべきではないかと思いました。

一般的には、家族や親類を後見人を選ぶことができます

家族信託は、元氣なうちに信頼出来る人と信託契約をします。名義だけを変更して自分の代わりに管理してもらいます。

管理してもらうことで、認知症になっても賃貸や売却ができ、凍結の心配がありません。所有者は本人なので、売却代金や家賃は本人が受け取ることができます。とても分かりやすくお話いただきました。

今回は、18名の方々よりアンケートにご協力いただきましたので、ご紹介いたします。

◆参加の動機を教えてください

- ・両親の介護・死に関わり、生前の心得を知りたかったから
- ・リタイア時期を迎え終活の必要性を考える
- ・住職の「寺の存在が地域住民の日常と共にある」ことがあるべき姿である的な考えに共感しているから

◆新たな発見や気づきがありましたか

- ・このようなお寺でのセミナーに、リモートで参加出来ることが新鮮ですね
- ・家族信託、成年後見、任意後見の違いについて学ぶことができました
- ・仏教の話を聞くのは3回目でしたが、毎回心に響くポイントが違って、今の自分に気になることや考えがその時々で変わることを楽しんだり、その後深く考えたり、同じ自分なのに面白いなと思っています

◆感想やご意見があれば教えてください

- ・ドキドキしながら参加しました。現地とZoomのハイブリッド。こんなにオープンなお寺初めて出会いました
- ・内容をわかり易く説明していただけてよかった。家族で話すきっかけにしていきたい

次回は、11月19日(土) 14時から。
テーマは、「お寺での葬儀とお墓」です。

光明寺合葬墓「光明廟」が完成いたしました

予定より遅れてしまいましたが、待ちに待った合葬墓「光明廟」が、千葉縣市川市市川にある光明寺墓所内に完成いたしました。

ご寄付をいただきました皆さま、心より感謝申し上げます、ありがとうございます。ただいま、パンフレットを作成しておりますので、出来上がりましたら皆さまに送付させていただきますとともに、ご寄付いただいた方々のお名前を含め決算などご報告させていただきます。



蓮池をイメージしたお墓になっていて、奥の石柱より水が流れてお花を挿すところに落ちてきます。浄土という世界を表したいと思いました。



正面の番号「南無阿弥陀仏」は、私住職が書かせていただきました。決して上手な字ではありませんが、私の願いを形にたく、書かせていただきました。「味がある」と思っていただけでしたら幸いです（笑）

お墓のカタチは随分と変わってまいりました。ご先祖が埋葬されているお墓には入らないという選択をされる方、やがて継承者がいなくなることを見越して墓じまいされる方、遠く離れた故郷にはお墓があるが、子どもや孫にお参りに来てほしいから自分は近くに埋葬してほしいという方、みんなで一つの墓にということに共感される方、経済的な理由も含め本当に様々です。

浄土真宗では、と言いますが、私はこのように考えています。

お墓は、亡き人を憶い偲ぶ場所です。同時に、今を生きる私たちが大切なことを教えていただく場所でもあります。ですから、正面には、「南無阿弥陀仏」と彫刻いたします。先祖が眠っている場所ではありません。靈魂を祀る場所でもありません。私が、亡き人に手を合わせることを通して、仏に出会い、仏の教えに出会う場所なのです。つまりお墓とは、亡き人から見れば未来を生きる者、現代を生きる私たちにとって必要な施設なのです。

難しいことを申しました。でも、私が大切にしたいと思っていますことです。

さて、その他、特徴をご紹介します。



石柱より地下カロートへ合葬します



蓮の花をイメージしています

ご報告

毎年8月、東京教務所を通じて、宗派への護持金等の納金依頼書が届きます。それぞれのお寺で提出している門徒戸数に基づいて、ご依頼額が決められます。今年度の光明寺へのご依頼総額は、八十六万四千五百円でした。今年も無事に納金を済ませることができましたこと、皆さまに御礼申し上げます。

本来であれば、皆さま方お一人お一人が、宗祖親鸞聖人と出遇う「本願寺」を護持するためにお納めいただいたご懇志を納金するところではございますが、光明寺にはそのような仕組みができておりませんでした。

従いまして、やむを得ずお寺の布施収入より護持金をお納めしておりましたが、このたび「光明寺護持会」を発足いたしました。

来年より、皆さま方に護持会費の納入をお願いいたします。いただいた会費より本山への納金を支出してまいりたいと考えております。何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



報恩講のご案内

宗祖親鸞聖人の御遺徳を偲び、阿弥陀如来の本願に出遇い得た喜びを、共に確かめ合いたいと思います。ぜひ御参詣ください。

期日	2022年11月13日(日)
日程	午前の部 10時 「報恩講」開式 11時 法話 光明寺住職

午後部	13時 「報恩講」開式 14時 法話 光明寺住職
-----	-----------------------------

※参詣をご希望の方は、お弁当の準備の都合上、お寺までご連絡ください。
(毎年ご参詣の方は別途ご案内いたします)

修正会のご案内

新しい年を迎えるにあたり、お寺で一緒に「正信偈」をお勤めしましょう。
お汁粉をご用意いたします。

日時	2023年1月1日(日) 午前11時
----	--------------------

※どなたでもご参詣いただけますが、準備の都合上、お寺までご連絡ください。

第15回終活セミナー

「終活」とは、やがて終わりを迎える私の人生に向き合い、心配なことを整理し、今のいのちを安心して生きて往くための活動です。お寺で、一緒に考えましょう。

開催日…11月19日(土) 14時～16時
テーマ…「お寺での葬儀とお墓について」

～大切にしたいこと～

講師…(株)大原セレモニーハート

カスタマー事業部 山本佳代さん

参加費…無料

アンケートでは、毎回関心が高い、皆さまお待ちかね(?)のテーマです。

今回は、住職がメインでお話いたします。浄土真宗の葬儀で大切にしたいこと。お寺での葬儀をすすめる理由。お墓をどう考えるかなど。なかなか聞けないけど、みなさまが関心のあることだと思います。葬儀社さまからも、葬儀を勤めるうえで大切にしていることをお聞きしたいと思います。

※お寺では三密を避け、除菌・消毒などの対策をいたしますが、お一人お一人におかれましては、体調には十分ご留意いただき、無理をせずにお出かけください。